



# いきいき! 仲間たち

巻頭特集

「ものづくりのよろこび」を大切に、  
温かい地域交流に積極的でありたい。  
「小野田陶芸同好会」 山陽小野田市

## 陶器にこめた人との繋がり

小野田港駅近くに建つ小さな作業所「楽和園」。小野田陶芸同好会の皆さんは、ここで日曜祭日を除く毎日朝8時から午後4時までの活動時間を利用して、初心者からベテランまで、肩を並べて創作活動に取り組んでいます。日々の作陶活動を中心に、山陽小野田市内各公民館が開催する親子陶芸教室、婦人部陶芸教室等での指導、市や社会福祉関係のイベントに参加し売上金の一部を福祉関係へ寄付するなど、幅広く地域で活動しています。



窯出し作業



可愛らしい動物の置物たち

和気あいあいの  
作業場で生み出される  
個性豊かな陶器たち

取材に伺ったこの日、楽和園では月に2度の窯出し作業の真っ最中。参加した17名のメンバーは、てきぱきと窯の中の焼き上がった陶器を取り出していきます。



湯呑み、お茶碗、可愛らしい動物の置物たち。テーブルの上にはあつという間にたくさんのお器でいっぱいになりました。「いい感じに仕上がっているじゃないー」「あらまあ、このお皿はこんな形にゆがんじゃった。焼いてみると分らないものねー」ズラリと並ぶ作品を手取る皆さんの表情はとても楽しそう。普段は茶碗や皿等の日用雑器を基礎に作陶し、ときには

大型花器や壺等の作品にも挑戦しています。思い思いに自分の好きな物を作ることが多く、使う土も萩焼、信楽焼、唐津焼のものなどさまざま。時には依頼を受けて焼くこともあるそうで、今回は市の社会福祉協議会からの依頼で、地域の喜寿の方々へのお祝い湯呑みが沢山作られています。

また、作品の発表の場として、小野田祭、福祉祭、山口新聞年末チャリティーなどの展示会やチャリティー即売会にも出展しています。市民文



社会福祉協議会に依頼された湯呑み



作品は展示会やチャリティー即売会などに出品

化祭、書・花・陶芸の「三芸三彩展」などの展示会には全員出品を呼びかけ、各々が日頃の活動の成果を込めた力作を出展しています。特に山口県の健康福祉祭美術展にはこれまで金賞8回受賞、銀賞、銅賞等毎年1点から3点受賞するほどの実力を持つ方も。何より、陶芸を愛し「アマチュアらしく、高齢者らしく。」をモットーに、毎日和気あいあいの雰囲気の中で毎日陶芸活動を行っています。



窯から出した作品の仕上げ

焼き上がった作品

老人福祉作業所「楽和園」

## 陶芸から始まる 新しい出会い

昭和60年12月にそれまで市内2カ所にあった陶芸愛好会が合流して「小野田陶芸同好会」は結成されました。活動場所を転々とした後、山陽小野田市から借り受けた廃屋を老人福祉作業所「楽和園」として改装し、陶芸活動の拠点となりました。

現在では2つの灯油窯、電動・手動のろくろ計26台、土を平たく伸ばす伸展機などの設備も充実しており、とても本格的な陶芸を行うことができます。これら設備品の購入など活動にかかる費用は、会員の作品の販売資金を主としてまかなわれています。平成6年以降からは市の助成を離れ、会員の積立金や作品の売上げ等を運営費に当てて活動を続けています。

会員数は現在32名。男女比はほぼ同数、50代から最高齢

は92歳と幅広い年齢層の方々が集い、作業所の中はいつも賑わっています。

参加している皆さんのお話を聞くと「もともと陶芸に興味があつて入会したかった。」「会社を定年になつてから、第二の人生を！と思ひ入会しました。」など、きっかけは様々なよう。中には県外から移住してきたのを機に参加されたり、お勤めをされながら活動に参加してる方も。

「過去にはまったく違う社会生活を送つてこられた皆さんですが、陶芸を愛する仲間であり、先輩後輩の差こそあれ互いに教え合い習ひ合い、仲良く研さんしあつて活動を



小野さん

続けています。」と、会のまとめ役の小野さん。参加している皆さんの一人ひとりを通じて、遠慮したり気をつかったりする必要がなく、心から打ち解けることができる仲間の集う場所として、「楽和園」は大きな存在であるように感じられました。

## 地域に広がる 陶芸教室の輪

日々の活動の他に小野田陶芸同好会では、陶芸教室の指導ボランティアを積極的に行っています。1991年に公民館の依頼を受け地区の小学生親子に陶芸教室を行ったのを機に、その後依頼に応じて様々なところへ出張しています。小規模の教室では班ごとに、教える人数が多いときは会員総出で駆けつけます。

陶芸教室の開催依頼は、各地区公民館の親子陶芸をはじめとして、保育園・幼稚園・



小学校クラブ指導

いぎ/いぎ/仲間たち



子供会陶芸教室

小学校・児童館・子ども会、更に、社協のデイサービスの方々等バラエティーに富んでいます。2006年には14教室、約20回の指導協力を行い、子ども約450人、親子合計700人以上の参加を得ました。

教室では、粘土から焼き物の形をつくるまでを一

緒に行います。生徒40名ほどの親子教室の場合、1テ

ル5〜6組の親子につき1名

指導員として入りますが、「子

どもに陶芸を教えるのはとて

も大変。」と会長の植杉さん

は言います。陶芸に興味津々

の子どもたちの元気のよさに

圧倒されるそう。「それでも

一緒に作業するのはとても楽

しいですよ。」



会長の植杉さん

陶芸の技術を「教える」と

いうよりも、遊び心を大切に、

土への親しみ、手でものをつ

くる喜びのお手伝いができる

ような教室づくりを心がけて

いるそうで、作陶後も参加者

より預かった作品一つひとつ

に気を配り、思い出深い作品

となるように心を込めて仕上

げています。

完成した品物を届けた時に

子どもたちの目を輝かせて喜

ぶ声を聞くと、何にもかえが

たい喜びが湧いてくるそうで

す。時には子どもたちからの

感謝状や紙で作った可愛らし

いメダルを貰うこともあり、

教室に大事に飾っている方も

いらっしやいました。こうし

た一つひとつの活動が、メン

バーにとって創作活動の原動

力になるのかも知れません。

様々な人とのふれあいと

ものづくりの喜びを

分かち合える場所へ

現在、小野田陶芸同好会の

平均年齢は72歳。参加者の年

齢の移り変わりもあり、年々

平均年齢が上がっています。

高齢になってくると窯焚きな

どの重労働に参加することが

難しくなります。「私たちよ

り若い世代の方々がたくさん

参加してくれることが一番の



保育園陶芸教室

願いですね。次の世代へ活動を繋げて欲しいです。」と会長さん。

数名が中心となり立ち上げ

た陶芸同好会が、いまや街に

なくてはならない大きな存在

へと成長しています。恵まれ

た作陶環境に感謝するとも

に、高齢者らしい社会への恩

返しとして、これからも「小

野田陶芸同好会」は、使うほ

どに味わい深さを増す萩焼の

ように、地域の中にしつかり

と染みこんでいくような活動

を続けていきます。

